

Business b-ridge の情報セキュリティ

2019.03 改訂
2015.06 作成

東洋ビジネスエンジニアリング株式会社 ソリューション事業本部
100-0004 東京都千代田区大手町 1-8-1 KDDI 大手町ビル
<https://www.businessbridge.jp>
お問合せはこちらまで



内容

- 1 はじめに
- 2 機密性
- 3 保全性
- 4 可用性
- 5 監査性
- 6 機密情報の保護
- 7 ユーザサポート

はじめに

クラウドコンピューティングをベースとした SaaS の利用に躊躇する理由として、情報セキュリティへの不安は常に上位に挙げられる。特に、インターネットからアクセスできるクラウドサービスを業務に利用する場合、オンプレミス環境以上に堅牢であることが期待される。

Business b-ridge（以下 b-ridge）は、ビジネス利用を前提としたクラウドサービスの基盤として、長年ビジネスアプリケーションを手掛け、エンタープライズレベルのセキュリティの重要性を熟知しているマイクロソフト社が提供しているクラウド「Microsoft Azure」をベースとすることで、インターネット上のコラボレーション・サイトでありながらビジネス用途で安心して使えるシステム構成を確立している。

Microsoft Azure は、施設レベルからネットワーク、サーバ、更には運用管理者のアクセス管理に至るまで複数の層で防御対策を行っており、定期的な外部監査と合わせて厳重に管理されている。

※マイクロソフト社は、外部の監査機関により 27001/27002:2013 認証準拠の認証を得ている。

b-ridge は、経済産業省が 2011 年 4 月に公表した「クラウドサービス利用のための情報セキュリティマネジメントガイドライン」を参考に、クラウド環境で情報資産を管理するための指針として SLA を策定し、Microsoft Azure のセキュリティを含め多層防御の構成によって顧客の情報資産を守るサービス提供をしている。

OECD（経済協力開発機構）が策定したセキュリティガイドラインによる情報セキュリティの 3 大基本理念 C.I.A.（機密性、保全性、可用性）への対応に加え、監査性についても SLA で規定しており、サービスの信頼性を向上する努力をしている。

機密性（許可された者だけが情報にアクセスできること）

- 機密性が高く堅牢なクラウド基盤であるマイクロソフト社の Microsoft Azure を利用
b-ridge は、マイクロソフト社の提供するクラウド基盤、Microsoft Azure を使用している。マイクロソフト社は、情報セキュリティマネジメントシステムの国際規格である 27001/27002:2013 準拠の認証と、委託先における内部統制監査の米国監査基準書である SOC(Service Organization Controls) 1 Type 2 および SOC 2 Type 2 の認定を取得している。
また、Microsoft Azure は、上記の監査への対応に加えて、データセンターの施設レベルからネットワーク、サーバ、そしてデータセンター内で運用に従事している運用管理者のアクセス管理に至るまで複数の層で防御対策を行っているため、重要なデータを安心して預けることが可能な基盤となっている。
- SSL によるすべての通信の暗号化
利用者との通信はもちろんのことシステム内の通信もすべて SSL により暗号化されているため、安全に重要な情報を共有することが可能。
- 不正アクセス対策済み
定期的な第三者機関によるセキュリティ診断と脆弱性対策を実施している。よって、不正アクセスによる情報漏えいを気にすることなく安心して利用可能なサービスとなっている。
- IP アドレスによるアクセス制限が利用可能
指定された IP アドレス帯域からのアクセスしか許さない設定をすることで、不正アクセスのリスクを大幅に軽減することが可能である。
- 組織レベルでのアクセス制限
基本のアクセス制限として組織^{*1}の壁があり、この壁を抜けることは不可能な仕組みになっている。よってマルチテナントでの利用においても顧客の情報の安全性は確保される。
- 組織の管理者が定義するロール（職務）による情報へのアクセス制限
組織内における情報へのアクセス権限は、情報の管理者が作成するロールに対して割り当てられ、更に、ユーザへのロールの割り当ても情報の管理者によって実施される。よって、組織内のメンバーであっても情報の管理者による許可を受けない限り、その情報にアクセスすることができない仕組みとなっている。
- 限定された運用管理者による集中管理
サービス保守のためのサーバ接続は、特定のネットワークからのものに限定されている。
また、厳格なアカウント管理および運用管理により限定された運用管理者が、手順ないしは規定、規約等に従って運用・保守を実施している。

保全性（情報が完全な状態であること）

- 冗長化されたデータ保持

b-ridge は、Microsoft Azure で提供されているデータベース（SQL Database）とストレージ（BLOB、Table）を利用している。これらは基盤として冗長化（プライマリ: 1 個、セカンダリ: 2 個）されており、プライマリに不具合が発生しても自動的に正常なセカンダリがプライマリに置き換わり、不具合が発生したデータベースやストレージは別の正常なものに置き換わる仕組みとなっている。また、データの書き込みはプライマリ・セカンダリ両方への書き込みに成功して初めて完了となる仕組みとなっており、書き込みの完全性が保証されている。更にストレージは地域的に離れたデータセンター間でレプリケーションされており、データセンターレベルの災害が発生した場合でもデータの復旧が可能となっている。

- データベース バックアップ

Microsoft Azure で提供されている SQL Database は常時バックアップが取得されており、日次で地理的に離れたデータセンターのストレージにも保管される。b-ridge の復旧計画では、アプリケーション障害によるデータ損失時には常時バックアップからのリストアを、データセンターレベルの災害時には日次バックアップからのリストアを予定している。

可用性（情報が必要なときに、いつでもアクセスできること）

- サービス利用開始の即時性

b-ridge サービスは、マルチテナント型の SaaS で提供しているため、組織と利用者を登録後、即時に利用開始可能である。

- クラウドならではの冗長化システム

システムはアプリケーション層からインフラ・ネットワーク層に至るまで、すべて多重化されているため、システム的な不具合が発生しても自動的に正常なシステムに切り替わる仕組みとなっている。

- クラウドならではのスケラブルなシステム

顧客のご利用状況に合わせ、システムの処理能力をスケラブルに調整しており、常に余裕のあるシステムパフォーマンスを提供している。

- クラウドプラットフォームに保証された稼働率

b-ridge は、クラウド基盤である Microsoft Azure の高稼働率を前提とし、不稼働率（本サービスの提供時間帯のうち、すべてのお客様が本サービスに全く接続できなかった時間帯の割合）が 1% 以下となるようサービス提供を行っている。

- 冗長なシステム監視

常時、複数のデータセンターに設置された監視システムによりアプリケーションの監視を行っており、障害の素早い検知と対策が実施可能な体制となっている。

監査性（透明性があること）

- b-ridge 稼働状況
過去 30 日までの稼働状況レポートを提供。
- 操作履歴
 - ・ログイン日時、成否などの情報を提供。
 - ・ファイルダウンロード、アップロード履歴などの監視対象オペレーション履歴を提供。
- 変更履歴
 - ・ユーザ管理、ロール管理、サークル管理などで発生する設定変更の履歴を提供。
 - ・データの変更履歴を提供。
- 安全・信頼に係る情報開示
 - ・総務省「ASP・SaaS の安全・信頼性に係る情報開示指針」に準拠した情報開示。
 - ・保守・運用体制に対しての顧客からの監査を受け入れる体制がある。

機密情報の保護

- 顧客情報の保護
サーバに保管された情報は、運用に関わるシステム管理者以外アクセスできないよう、厳格に管理・運用されている。
- 顧客情報の開示
顧客の同意を得たとき、または法令により要求される場合など、特定のごく限られた状況を除いてデータを開示することはない。

ユーザサポート

- 問い合わせ窓口
問い合わせ用のサポート Web サイトが提供されている。

本ドキュメントに含まれる情報は、情報としての利用のみを目的としています。ドキュメントの内容は発行時点における東洋ビジネスエンジニアリング株式会社(以下、"B-EN-G")の見解を反映したものです。B-EN-G は、本ドキュメントの正確性または目的への適合性について、いかなる保証または表明も行いません。また、本ドキュメントの使用に起因するいかなる状況についても責任を負いません。この状況には、過失(人体の負傷または死亡を除く)、あらゆる破損または損失(業務上の損失、収益または利益などの結果的な損失を無制限に含む)などが含まれます。本ドキュメントには技術的に不正確な記述や表記の誤りが含まれる場合があります。本ドキュメントは市場状況などの変化により、内容が最新のものではない場合があります。B-EN-G は、本ドキュメントの内容を常に更新したり最新の情報を反映することについて一切の義務を負わず、これらを行わないことによる責任を問われないものとします。B-EN-G は、本ドキュメントに記載されている内容に関して、特許、特許出願、商標、著作権、またはその他の無体財産権を有する場合があります。

本ドキュメントはこれらの特許、商標、著作権、またはその他の無体財産権に関する権利をお客様に許諾するものではありません。

Business b-ridge は、B-EN-G の登録商標です。Microsoft、Windows、Microsoft Azure は、Microsoft Corporation の商標または登録商標です。その他すべての商標は、その所有者に帰属します。